



代表質問するささい茂智 12月4日 県議会本会議場

子どもたちの幸福実現 のための教育改革を!!

11月定例県議会
子育て支援や財政問題など
7項目を質問 代表質問で

11月30日に始まった11月定例県議会が、12月21日に閉会し、バス事業を廃止した井笠鉄道(笠岡市)の路線を引き継ぐ業者への補助金を計上した本年度一般会計補正予算案や議会が自らの役割や責務を明示した議会基本条例案など42議案を可決しました。

私は12月4日の代表質問に登壇し、伊原木知事に、今後の県政運営や財政問題、子育て支援、教育問題など7項目にわたり質問。教育問題では『教育の原点は子供たちの幸福』との視点から、義務教育での35人以下学級の実現や教職員定数の充実、いじめや不登校問題への対応のための教育委員会の抜本的な見直しなどを要望しました。

伊原木隆太知事は「教育機能の向上のため、必要な教職員数を確保するよう取り組みたい。また、現行の教育委員会制度は迅速な意思決定などに問題があり、教育委員会と十分に協議したい」と答弁しました。

その他主な質問と答弁

1. 財政問題等について

(1) 公会計のあり方

複式簿記、発生主義会計を導入し、徹底した財政の見える化を進めるべきだ。

→ 財務諸表を活用し、現金主義会計では見えにくいコストを明示して、将来の負担に対する意識を高めることや資産・負債の状況の整理、外郭団体等との連結による県財政全体の把握に努めていく。(知事)

(2) 県の財政状況

現在の財政状況をどのように認識しているか。また、まだまだ行革の余地はあると思うが、今後の考え方を伺いたい。

→ 危機的財政状況から脱却できる見込みだが、来年度以降も年数十億円規模の収支不足が見込まれている。徹底した無駄の排除に努めるなど、不断の改革に取り組む姿勢が必要である。(知事)

2. 県政の運営について

例えば、「県民会議」を設置するなど、各分野の有識者や関係者など

議会基本条例を制定

12月21日の11月定例県議会本会議で、岡山県議会基本条例が可決、成立しました。

全県議が参加して予算案を集中審議する「予算総括協議会」の設置や6月定例会から導入した一問一答方式の活用などを明文化しています。

公明党岡山県議団では、昨年6月に議会改革の議論を加速させるように当時の議長に申し入れ書を提出。議会基本条例の制定はもとより、政務調査費のあり方、議員定数の削減・選挙区の見直し、一問一答方式導入などを明記し、改革への取り組みを訴えてきました。

岡山県の発展に向けて、真に生きた条例とするため、情報公開や住民参加、議会運営などの課題の解決のため、具体的な改革が着実に進むよう今後とも取り組んでまいります。

の声をしっかりと聞き、県政運営を進めることが必要と考えるがいか
がが。

→ 外部の方々からの専門的な意見を県政に反映することは非常に重要にことであり、各界各層の有識者の意見や、県内各地域の関係者の皆様の声によく耳を傾け、県政のかじ取りを行っていく。(知事)

3.子育て支援について

(1) 地方版子ども・子育て会議

子ども・子育て支援法では都道府県、市区町村に地方版子ども・子育て会議の設置を努力義務化している。県でも、子育て家庭のニーズをより一層反映できるよう、子育て当事者等をメンバーとする合議制機関を新たに設置してはどうか。

→ 子育て家庭のニーズが反映されるよう子育て当事者を委員とする会議を設置することは有意義である。このため、子ども・子育て支援事業支援計画に対して意見を聴くため、子育て当事者や支援者など、関係者からなる協議会の設置に向け、スケジュールや関係予算の確保を検討している。(知事)

(2) 子宮頸がん予防ワクチン接種

子宮頸がんの原因は、ほぼウイルスの感染で、ワクチンでの予防が可能だ。全県の接種率は74.3%で、市

町村別の接種率の差が大きい。今後どういった取り組みを行うのか。

→ ご指摘のとおり、接種率の低い市町村があることが課題であり、個別通知や中学校への協力要請など接種率向上に資する取り組みを市町村に情報提供するとともに、県民に講演会や相談対応を通じて正しい知識の普及に努める。(知事)

4.教育問題について

(1) 教育委員会のあり方

教育委員会のあり方について、今のままでよいのか議論を開始すべきではないか。知事と教育委員会の関係をどう考えているのか。また、非常勤の委員で構成する教育委員会が、常勤の教育長を指揮監督することには無理があるのではないか。

→ 現在の教育委員会制度は、地域住民の意思の的確な反映や教育行政における責任の明確化などの課題が指摘されており、首長がそれぞれの地域の教育に一層責任を負い、権限を行使できる方向で、今後のあり方を検討すべき時期にきている。また、意思決定の面で迅速さや機動性に欠けるといった課題が指摘されているが、現制度下でも着実に成果をあげられるよう最大限努力し、よりよい制度のあり方を研究したい。(知事)

(2) 学校図書館の充実

学校司書の配置率が市町村により大きな差があり、読書などの取り組みにも格差が生じている。また、図書標準にも差がある。今年度から学校図書館を充実させる地方財政措置も始まっている。県内どこでも同じ質の教育を受けられる環境の整備をどう進めるのか。

→ 県では子ども読書活動推進計画に基づき、蔵書の整備や学校司書の配置等について市町村に働きかけてきたが、現在策定の次期推進計画で、蔵書の充実や学校司書の配置促進について検討するとともに、地方財政措置を活用するよう市町村に働きかける。(知事)

う取り組む。

5.通学路の安全対策について

交通安全対策を条例化している自治体が増えている。通学路の安全対策や緊急点検を恒常的に行うための体制を組み込んだ本県の安全対策の条例化はできないか。

→ 通学路の安全対策や点検は、県の交通安全実施計画を一層充実させるとともに、県教委や県警察など関係機関と一丸となって、重点的に取り組んでいく。県民に広く呼びかける条例化は、その効果や必要性を検討すべきである。(知事)

ささい茂智 “プロフィール”



昭和38年10月13日 総社市生まれ(49歳)

【学歴】昭和57年岡山県立総社高等学校、昭和61年創価大学経済学部卒

【職歴】昭和61年岡山県農業協同組合中央会、平成16年参議院議員谷合正明公設秘書、平成23年岡山県議会議員初当選(岡山市中区選挙区)

【議会】環境文化保健福祉委員会委員、防災・環境対策・新エネルギー特別委員会委員

【家族】妻、一男一女、母、妹の6人

【座右の銘】初志貫徹

【趣味】スポーツ(ジョギング、軟式野球)